



★雪待ち月の朗読会(大人対象)】 11月16日(土) 午後1時30分開演 場所・雄勝郡会議事堂記念館2階 映画『ぼけますから、よろしくお願いします』

あつちこつち川柳

21世紀の日本は、人口の27%が65歳以上という超高齢社会に突入しました。

内閣府の資料(2018年版高齢社会白書の都道府県別高齢化率の推移)によりますと、秋田県は日本一の35・6%となつており、2045年には50・1%となり、日本一を維持する見込みです。今後、65歳以上の人口の増加と少子化による高齢化はすべての都道府県で上昇することになり、大都市圏を含めて全国的な広がりをみせています。

また、2018年度の秋田県の統計によりますと、

38万、302世帯のうち65歳以上の高齢者のだけの

世帯数は120、809世帯のうち高齢者のひと

り暮らしへ世帯数は66、563世帯であり、総世帯数

に占める割合はそれぞれ31・0%、17・1%。

高齢者の介護の問題はもはや他人事ではありません。

そして、介護の中でも依然として垣根が高く、

あまりオーブンにされることがないのが認知症の介護です。

認知症の患者数は年々増え続け、このまま

いけば、2040年には953万人を超えると予測

(厚生労働省認知症施策推進総合戦略「新オレンジ

プラン」の概要)されております。

「新オレンジプラン」では、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指していますが、医療や介護の状況は、満足すべきものとはなつていません。

介護保険法は、加齢に伴つて生ずる疾病などによつて要介護状態となつた人々の尊厳を保持し、能

力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう

にと、2000年から始まりました。数度の改定で、

現状の制度となつていています。国の予算配分の都合で、

支援の人々を地方の財政に向かひ舵を切る

など、当初の目的から逸れてきているように感じられます。10月からの消費税増税が始まる、「新オレンジプラン」で謳われている「認知症の人の意思が尊重」され、「自分らしく暮らし続けること」が、ますます困難になつてしまふのではないかと危ぶまれます。

また、国及び地方公共団体には、認知症に対する国民の関心及び理解を深めるように求めていますが、増え続ける認知症についての理解も一般的になつてはおらず、いつん雁つてしまえば、その人はもう人格まで破壊されてしまつ……と思われ、真に必要な人とのかかわりが断絶され、症状が進んでしまう

といつとも現れています。

映画「ぼけますから、よろしくお願いします」は、東京でテレビディレクターをしている信友直子監督が広島県呉市に暮らす認知症の母親(87歳)と、妻を介護しながら家事もこなす父親(95歳)の姿を1200日にわたって撮影したものを作成したドキュメンタリー作品です。映画は昨年劇場公開され評判を呼び、公開する映画館が増加していきます。このたび、「秋田県」や「秋田県社会福祉協議会」の会員団体秋田県支部などの推薦を受け、秋田大学医学部大学院の中村順子教授を代表呼びかけ人として、秋田県映画「ぼけますから、よろしくお願いします」上映する会を開催しました。秋田市文化会館小ホールで上映しました。家族の方や人間の尊嚴について私たちに語りかけ、問い合わせ

します。

7月11日(木)には、秋田県最初の上映会として、秋田市文化会館小ホールで上映しました。家族の方や人間の尊嚴について私たちに語りかけ、問い合わせ

します。

秋田市文化会館小ホールで上映しました。家族の方や人間の尊嚴について私たちに語りかけ、問い合わせ

します。

秋田市文化会館小ホールで上映しました。家族の方や人間の尊嚴について私たちに語りかけ、問い合わせ</